

…雨でも休まず／：第153回・～157回…

「小原本陣の森、若柳嵐山の森」から

◎NEW 4月 2日(第一土曜) 小原本陣の森

*今月から新しい取組み：多数の山持ちさんとの協働／参加費 300円

*相模湖駅前集合。車分乗で行く。

*活動後、小原町と交流会、於て小原公民館：桜の下／参加費1000円

◎定例活動：4月 17日(第三日曜) 若柳嵐山の森

*野蒜、甘草摘みやタケノコ堀など。主食のみ持参の事。参加費500円

◎定例活動：4月 23日(第四土曜) 甲州古道復活

●臨時活動：4月 29日(縁日・祭日) やまなみ祭／参加費なし

*恒例の相模湖町最大の祭り、参加自由。昨年、茶席が大にぎわい。

*前日28日、準備のため、森泊まり。参加者募集。楽しくやろうぜ。

●臨時活動：4月 30日(第五土曜) 県との協働事業

*ネイチャーフェスティバル、於／川崎市新鶴見操車場跡地／参加費なし

*必ず申込：ボランティア保険加入と食材の準備に必要。

：T&F 03-3411-1636、メールもOK。

*初参加者：JR相模湖駅前：9時15分集合。

JR高尾発：8時42分、9時02分に乗られたし。

*服装：滑らない足下、汚れて良い格好、作業手袋は革製が安全。

*持参：保険証写し、活動を楽しむゆとりと心構え。

新しい森林活動：小原本陣の森

木材など森林資源の経済的価値が低くなってしまった。そんな状況の中で森林地域の多数の私有林の山持ちさんが都会からやって来た森林ボランティアと一緒に森を守り抜こうと言う事になった。森から離れざるを得ない状況の中で極めて希有な事である。

「小原本陣の森」には、地主さんたちは30人程いる。従って、30数人の森に対する異なる思いが有る。この多数の異なる思いが一つの方向を向いて動き出す。

即ち、“森林破壊という負の遺産を子孫に残してはならない”と言う事、および、“環境と経済は本来、矛盾しない、その解決する途を探そう”と言う事である。

● 定例活動報告：3月5日（第一土曜日）森林整備に注力

日本の森を知らずして外国の森林整備に行くのはおかしいとジエイカから日本青年会議所と大学生の森林指導依頼を受けた。

前日の名残の降雪はドカ雪であった。この雪では活動ができるか心配だった。気温が上がつて心配は杞憂に終った。

森林仲間20名+学生16名+青年会議所16名=52名の参加。森の中では雪が深かった。



中国に植林に行く日本青年会議所の皆さんに森林の基礎知識を指導

・ジエイカの依頼を斎藤仲間が

学生を引き受け、石村が青年会議所を引き受けた。以下、石村の指導報告。

- ・先ず、森の入り口で森を見ながらわが国と世界の森林荒廃の現状を話した。嵐山頂上まで案内する事として協力協約B地区から東海自然遊歩道に抜ける観察道を案内しながら自然と人間との調和・共生を話した。雪に埋もれ遊歩道登りには、厳しいものがあった。嵐山頂上到着時には全員、汗まみれとなっていた。
- ・晴れ間も広がり“神奈川景観百選／嵐山頂上”からの遠景に富士を抱く景観に参加者に喚声があった。そのような素晴らしい状況の中で当会の活動のキッカケから現在に至る経過を話し、質疑応答に費やした。
- ・鋭い質問と真剣な応対に時を忘れてしまっていた。帰路、融雪、泥濘の滑る下り坂は厳しいものがあったが誰一人、弱音・助けを求める事もなし。“さすが、青年企業家たち”。彼らに少し過酷な森林体験をさせたが、将来の日本を背負う青年会議所会員と大学生選抜者との協働は結果として「これで良かった」の思いで満たされた。斎藤仲間の指導、宜しき得た学生隊も“納得・満足”的な顔付き。活動評価会後、彼らは快活に森を後にした。

雪のため危険を避けて枝打ちが出来ず、検査に遅れの恐れあり。お目こぼしを嫌う森仲間にやや焦燥感。

活動終了後、霧氣味の森で「ムササビ亭」開店。森仲間全員が暖簾をくぐった。清水支配人が「お客様は神様」とかいいながら感激して特価大サービス、無料とは行かないが一律500円で飲み放題。ツマミのオデンが旨かった。園田御大が「これから森つくりのイメージを各自、語れ」と強要してきたが、参加者全員大いに吠えまくった。森仲間、万歳。

● 定例活動報告：3月20日（第三曜日）里山交流

小春日和のこの日、3連休とあってか参加51名とやや少なめ。

甲斐東部製材組合から材の引取りに和智さん、23日の林業技術講習会下準備に森林保全課の厚沢主査とさとう草木の佐藤さん参加。厚沢さんは当会会員だが最後までいてくれた。どうやら人事移動で他部署に移動するらしいが別れの挨拶に来られたのかも知れない。寂しい。このような人との別れはつらい。

作業終了後は、小原公民館の桜散る花の下で“小原町内会／恒例のお花見”に便乗して「小原町内会+NPO緑のダム北相模」の固めの杯をする。俺いら自慢の「手作りどぶろく」を持参する。「手作りドブロク」をとやかくいう輩もいるが自分で作って自分で飲む分は、酒税法は埒外。為念、それでも気になる者は自腹で近くのコンビニ缶ビールでも買っておいで。参加費1000円。

こんな事を考えていると小原町のお世話係の小碇(コイカリ)さんから手紙を頂いた。以下、その要約。

緑のダム北相模の方々から、森林整備の重要性について説明を以前から聞いており、このことは、環境問題と大きくリンクすることであり、私たちも、この問題を真剣に受け止める必要があるとの認識をもっておりました。

北相模の方々も相模湖町の中での活動を活発化され、町のイベントにも参加されると共に、奥畠地域(若柳嵐山の森)においても活動され大きな成果をあげておられます。

先日、永井議員を通じて「小原の郷」での活動をしていきたいとの話を受け、このことを、自治会長さんを通じて町内の皆様にお伝えして参りました。自治会においても賛同を受けたことがあり、今回、山林所有者の方々にお集まりいただき、今後の事業の推進を一緒に考えて頂きたいと思っております。

● その他の報告1、2月26日：甲州古道 in 藤野町

4月から「甲州古道復活事業」が県との協働事業になる事から藤野町の古道仲間に集まってもらって町の公民館和室を借りて状況説明と今後を相談した。

郷土史家の吉野さん他12名が参加した。吉野さんから水没し今は小猿橋の事など1時間程、貴重な話を聞かせて頂いた。



藤野町の古道仲間との相談会



手前の岩場から向こう対岸に小猿橋が掛かっていた、今は湖底の中。

午後は、古老：三宅さん等に吉野宿から沢井への間道を案内してもらい猿橋跡、ダムのため水没した小猿橋探索を試みた。確かに新猿橋、小猿橋の痕跡を見つけ写真に記録した。こんな形で記録に残さないと歴史は忘却の彼方に消滅してしまう。過去を調べ、現在を見れば、将来が見えて来る。

● その他の報告2、2月28日：北鎌倉便り

報告 緑のダム北鎌倉：兼松まゆみ

整備班は、検査は間際で気合いを入れて取り組んだ。作業が少し遅気味だが、N P Oだからとお情けの検査は会として恥…と大日向隊長始め班員は22日と27日に臨時作業をする事とした。

・竹炭窯班は、詰め込み作業を終了し炉口ふさぎ、来月、火を入れる。

・造園班：森入り口の手摺仕上げ。ムササビ庭園の一角を借りて満開の白梅の下で加藤夫妻によるお点前に優雅な一時を過ごした。気分が良い…、と長っ尻のハイカー参加多数。沈丁花・満開。



FSC推進チーム；情報公開システム再構築と提出資料不足の報告があった。

「そんなら無理する事はない。森林は50年、100年だから審査が数か月、先に伸びようと問題なし」と結論付けて2~3ヶ月、先延ばしだ。森仲間たち、了承されたい。篠田リーダーは、獅子奮迅の働き。

活動終了後、ムササビ亭の清水支配人のご協力を得て軽く焼酎を飲みながら篠田リーダーがFSC活動の状況報告をした。

報告会では、鋭い質問・意見・提案も出たが会議室でシチ面倒臭い議論をくりかえすより、こんな楽しい雰囲気で語り合うと全て前向きの発想に助けられていろんな事がテキパキとかたづいて行く。

尚、ムササビ亭には新たに小松店長が赴任した。何んでも清水支配人の親友でユニホームをつくっている会社の社長とか。明朗快活な人物で赴任当日から、主・店長の風格あり。



小原本陣の森／初日：行動の予定：耕第一土曜日：4月2日。

津久井地区行政センターの小林所長もボランティア参加してくれる。先ず、森の入り口で小原町の永井宏一さんと園田総隊長の先導で森の神様にご挨拶する。次いで、森林状況を観察しつつ林道を補修しながら、全員で大久保沢を辿る廻行して林道行き止まりまで行く。行き止まりから先は杣道だが相当に荒れている。…が藪にシャニムニ分け入る。急斜面入ると小仏断層の土壌がグサグサで脆い。この辺り、7歳級以下の荒れた森である。こここの整備がこの森のポイントとなる。更に直登して明王峠～与瀬神社への登山道に出る。左折して孫山の頭から眼下に相模湖を見下ろす本陣尾根をノンビリ4時間の行程。

北鎌倉：東慶寺において、お寺様と専属の庭師の方たちを交え、早急にしなければならない事、崩落現場へのアドバイス、それから我々が関わる本堂裏斜面の景観を良くして行きながら竹林を5年～10年かけてお世話する作業について話し合いが持たれました。

いよいよ、「緑のダム北相模」による北鎌倉における実践のスタートになります。狭い面積ですが文化財を守るために、ある程度早く結果を出したいところです。

3月20日過ぎに次回の作業に入りますがその時、除伐した青竹が「鎌倉／匠の市：4月2日・3日」での“竹で遊ぼうコーナー”で大活躍してくれるものと思います。建築中の私の家の端材で何か面白いものをつくって出品したいとも思っています。

● その他の報告3、ネイチャーフェスティバル打合せ準備会

3月16日、水源環境の保全・

再生を成功させるための緑のダムが核となる「森林と都市をつなぐ活動・協議会」の事業として、川崎に拠点を置く「幸・まちづくり研究会」と共催する。同フェスティバルの第二回打ち合わせ会は、新鶴見JR貨物の事務所で話し合った。総勢31人の話し合いは、「子供の未来の為に…再生しよう水源の森を」という方向が明確であり、役割分担もテキパキと進んだ。もう一度打合せ会をやるが「ネイチャーフェスティバル」の開催は4月30日。この事業は「県産材を都市につなぐ神奈川県との協働事業」であり川崎市も後援に入ってくれる。



● その他の報告4：3月20日：小原町内会との話し合い。

「小原本陣の森」活動目前に小原町内会と最後の意志確認をした。永井さん、小碇さん、中里さん等、12名の小原町を代表する方々と当会から石村・篠田・石橋が参加した。お互いを称えあう和気藹々(わきあいあい)の話し合いは、このままズッと森を語り合いたい思いだったが、定刻の2時30分に辞去した。小原町の人々の思いは、森林の公益性保持と、森を孫・子の代に伝える責任がある、美しい昔の森に戻して都会の人々にも来てもらおう…と常日頃、当会の思っている事と同じで“ああ、ここでも当会は調和できる”と森への感謝の念に満たされた。後で知った事だが、この方々の中に津久井行政Cの所長をしたとか、宮が瀬ダム建設の責任者だった人もいたとか、また、農工大で教鞭を取っていた人がいた。このような方々が受け入れて下さった事、その意味を考えてみる必要がある。

● その他の報告5：3月23日：林業講習会（伐採・伐出技法）

小雨模様の若柳・嵐山の森に津久井地区行政センター主催の伐採・伐出技術講習会が森林組合・林業協会・種苗協会の皆さんを集めて開催された。講師は、サトウ草木の職員の皆さん。25m以上もある杉大木をピタリと定めた場所な倒す技は、神技とも思える正確さで、これを4mに玉切りして林内搬出車で林道まで運び出した。当会からの参加者は、加藤さん(巣)など7名。良い勉強になった。

与瀬神社と伝承

… ヤヨキヨさん物語 …

ある日ヤヨキヨさん兄弟が、相模川で漁をしていたところ何やら貴きものがかかりすくいあげました二人はこのご神体らしき貴きものを、相模川の北岸の地（相模湖町西側段上の宮地）に祠をたて祭りました。ところが、里に疫病や火災が度々起こりました。このように里より低い土地に貴い神をまつるのは、神のたたりであると言わっていましたからおよそ290年前頃、現在の与瀬神社の地に遷座したところ、ただちに厄災がやみました。以来、靈験新たかな神として神威が増し参詣者が後を絶たないほど増えました。

この伝承のヤヨキヨさん二人の子孫は、精進衆として祭りに奉仕しています。また、相模川の網に掛かったところを御供岩と呼び、相模湖の出現によって湖底に沈むのでこの一部を地名畠井東の地に移し、御供岩祭場として例大祭には祭事を執り行っています。

「ヤヨ・キヨさん」の網に掛かった御神体について幾つかの言い伝えがあります。
その一つが、永録12年（1569年＝435年前）武田信玄小田原攻め後、甲府の凱旋の帰路、上野原の諏訪番所（関所）より対岸の至近距離の名倉方面の道明かりとして火矢を放ったところ、石楯神社を焼いてしまいました。火の勢いすさまじく御神体の一つが相模川に落下しました、その御神体が流れて、御供岩で「ヤヨ、キヨ」さんにすくいあげられたのです。

その言い伝えの検証として「新編相模国風土記稿」の石楯尾神社の稿に「永録12年、武田信玄三増合戦より凱旋する時、この辺りに火を放して過ぎたもうへば靈宝、古器、舊記悉く鳥有となる」と記されてまた、石楯尾神社とは、与瀬神社同様蔵王権現社を遷座しました。

（文責 中里）

後記：FSC予備審査延期；先述のように、審査に臨む資料が不足と判断して2～3ヶ月、延ばす。世界で約600ヶ所、わが国では19ヶ所の国際認証の中で皆無だが「都会の普通の人々による国際認証による森つくり」は、世界ではどうかと認証機関SGSに調べてもらっている。もしなければ初めての事だし、あれば交流して活動を世界に広報したい。スエーデン大使館から活動内容の問い合わせも来ている。

- 4月2日(第一回) 小原本陣の森
相模湖駅前9時15分集合、車分乗
終了後、小原町と交流会
- 4月17日(第三回) 若柳の森
- 4月23日(第四回) 甲州古道
- 4月29日(みどりの日) やまなみ祭
- 4月30日ネイチャーフェスティバル
新川崎JR操車場跡地

モットー／休まず・無理せず、楽しく、ボチボチと…
そして、沢山のご意見と参加下さい。

名 称／さがみ湖・森つくりの会
NPO法人緑のダム北相模／森林部会
事務局／〒154-0023 世田谷区若林3-35-9
T&F／03-3411-1636
発行者／石村黄仁

○協働

団体 神奈川県（津久井森林林務課・土地水資源対策課）／NPO緑のダム北相模の森林保全活動は、左記の団体との協働事業として実施しています。
・HP：<http://www008.upp.net.jp/kitasagami>
* 支援団体 WWFジャパン、WWF日興インベスタートス基金、損保ジャパン環境財団、イオン財团
日本財団、神奈川社会チャレンジ基金